



専務執行役員  
グループ会社管理部担当  
**北尾 宜久**

日本電産はこれまで自律成長とM&A（企業の買収・合併）を車の両輪として飛躍的な成長を遂げてきました。グループ会社間の連携を円滑に進め、付加価値を生み出していくには何が必要なのでしょうか。グループ会社管理部の担当役員に聞いてみました。

## Q1 グループ会社管理部とは？

グループ会社間のパイプ役を果たす部署です。グループ会社の経営計画に助言を行ったり、各社が同じ目標に向かって走るためのサポートをします。

## Q2 具体的な業務は？

日本電産の方針をグループ各社と共有し、その達成を支援します。グループ会社の経営会議に参加し業績の進捗確認を行うなど、グループ会社に関連するあらゆる業務を担当します。たとえば、M&Aを通じて日本電産グループ入りした会社がスムーズに馴染むよう、両者の間に入って調整を図るといった業務も担います。

## Q3 M&A後の統合業務について、もう少しお聞かせください。

最近の事例では、2019年10月にオムロン オートモーティブエレクトロニクス株式会社（現：日本電産モビリティ）が、また本年8月には三菱重工工作機械株式会社（現：日本電産マシンツール）がグループ傘下に加われました。永守会長自らがこれらの企業を定期的に訪れ、経営指導や多くの社員とのコミュニケーションをきめ細やかに行っています。



日本電産モビリティ本社



日本電産マシンツールで講話をする永守会長

## Q4 なるほど、そういったグループ内の連携を強化する業務もあるんですね。

はい。より一層の連携を図るため、日本電産は、京都市にある本社ビルの隣接地にグループ会社を集約するための新拠点を建設中です。日本電産リードの本社機能や日本電産シンポの本社及び技術開発センターなどが集まる予定です。



日本電産グループ新拠点完成図

## Q5 One Nidecの動きが進展していますね。

その通りです。One Nidecとは日本電産グループの一体化を意味しています。2017年には全グループ会社のロゴをNidecに統一しユニフォームも揃えました。日本電産グループが一体となってグループ各社の技術や人的リソースを結集し、新たな製品・サービスを提供するという意志の表れでもあります。

## Q6 最後に一言お願いします。

当社は2025年度に売上高4兆円を目指しています。目標達成のため、日本電産グループが一丸となることが重要です。今後もグループ一体化を強力に推進し、日本電産グループの更なる飛躍を実現します。